

## 【B年】聖霊降臨節第16主日(2022年9月18日)

## 【旧約聖書日課】列王記上21章1～16節

1これらの出来事の後のことである。イズレエルの人ナボトは、イズレエルにぶどう畑を持っていた。畑はサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。2アハブはナボトに話を持ちかけた。「お前のぶどう畑を譲ってくれ。わたしの宮殿のすぐ隣にあるので、それをわたしの菜園にしたい。その代わり、お前にはもっと良いぶどう畑を与えよう。もし望むなら、それに相当する代金を銀で支払ってもよい。」3ナボトはアハブに、「先祖から伝わる嗣業の土地を譲ることなど、主にかけてわたしにはできません」と言った。4アハブは、イズレエルの人ナボトが、「先祖から伝わる嗣業の土地を譲ることはできない」と言ったその言葉に機嫌を損ね、腹を立てて宮殿に帰って行った。寝台に横たわった彼は顔を背け、食事も取らなかった。5妻のイゼベルが来て、「どうしてそんなに御機嫌が悪く、食事もなさらないのですか」と尋ねると、6彼は妻に語った。「イズレエルの人ナボトに、彼のぶどう畑をわたしに銀で買い取らせるか、あるいは望むなら代わりの畑と取り替えさせるか、いずれにしても譲ってくれと申し入れたが、畑は譲れないと言うのだ。」7妻のイゼベルは王に言った。「今イスラエルを支配しているのはあなたです。起きて食事をし、元気を出してください。わたしがイズレエルの人ナボトのぶどう畑を手に入れてあげましょう。」

8イゼベルはアハブの名で手紙を書き、アハブの印を押して封をし、その手紙をナボトのいる町に住む長老と貴族に送った。9その手紙にはこう書かれていた。「断食を布告し、ナボトを民の最前列に座らせよ。10ならず者を二人彼に向かって座らせ、ナボトが神と王とを呪った、と証言させよ。こうしてナボトを引き出し、石で打ち殺せ。」11その町の人々、その町に住む長老と貴族たちはイゼベルが命じたとおりに行った。12彼らは断食を布告し、ナボトを民の最前列に座らせた。13ならず者も二人来てナボトに向かって座った。ならず者たちは民の前でナボトに対して証言し、「ナボトは神と王とを呪った」と言った。人々は彼を町の外に引き出し、石で打ち殺した。14彼らはイゼベルに使いを送って、ナボトが石で打ち殺されたと伝えた。15イゼベルはナボトが石で打ち殺されたと聞くと、アハブに言った。「イズレエルの人ナボトが、銀と引き換えにあなたに譲るのを拒んだあのぶどう畑を、直ちに自分のものにしてください。ナボトはもう生きていません。死んだのです。」16アハブはナボトが死んだと聞くと、直ちにイズレエルの人ナボトのぶどう畑を自分のものにして下って行った。

## 【使徒書日課】ガラテヤの信徒への手紙1章1～10節

1人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ、2ならびに、わたしと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。

3わたしたちの父である神と、主イエス・キリストの恵みと平和が、あなたがたにあるように。4キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。5わたしたちの神であり父である方に世々限りなく栄光がありますように、アーメン。

6キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。7ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。8しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告知知らせたものに反する福音を告知知らせようとするならば、呪われるがよい。9わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告知知らせる者がいれば、呪われるがよい。10こんなことを言って、今わたしは人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、何とかして人の気に入ろうとあぐさくしているのでしょうか。もし、今なお人の気に入ろうとしているなら、わたしはキリストの僕ではありません。

## 【福音書日課】マルコによる福音書 12章35～44節

35イエスは神殿の境内で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。36ダビデ自身が聖霊を受けて言っている。

『主は、わたしの主におおげになった。

「わたしの右の座に着きなさい。

わたしがあなたの敵を

あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』

37このようにダビデ自身がメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」大勢の群衆は、イエスの教えに喜んで耳を傾けた。

38イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、39会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、40また、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

41イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。42ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。43イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はつきり言うておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。44皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

## 「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

## 列王記上21章1~16節

1これらの出来事の後のことである。イズレエル人ナボトは、イズレエルにぶどう畑を持っていたが、それはサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。2アハブはナボトに話を持ちかけて言った。「お前のぶどう畑を譲ってほしい。私の王宮のすぐそばにあるので、菜園にしたいのだ。その代わり、お前にはもっと良いぶどう畑をやるう。もしよければ、それ相当の代価を銀で支払ってもよい。」3ナボトはアハブに言った。「先祖から受け継いだ地をあなたに譲ることなど、主は決してお許しになりません。」4アハブは、イズレエル人ナボトが、「先祖から受け継いだ地をあなたに譲ることなどできません」と言ったことに機嫌を損ね、激しく怒って王宮に戻った。そして寝台に横たわった顔を背け、食事もしなかった。5すると妻のイゼベルが来て、「どうしてそのように機嫌を損ねて、食事もなさらないのですか」と尋ねると、6アハブは話した。「私はイズレエル人ナボトに次のように話を持ちかけたのだ。『代金を支払うからぶどう畑を譲ってほしい。あるいはお前が望むなら、代わりのぶどう畑をやるう。』だがナボトは、『ぶどう畑は譲りません』と言うのだ。」7妻のイゼベルは王に言った。「今、イスラエルを王として治めているのはあなたではないですか。起きて食事をしてください。そうすれば気分はよくなるでしょう。イズレエル人ナボトのぶどう畑は、この私が手に入れてさしあげましょう。」

8イゼベルはアハブの名で手紙を書き、彼の印で封をし、その手紙をナボトが住む町の長老や貴族に送った。9手紙にはこう記されていた。「断食を布告し、ナボトを民のいちばん前に座らせなさい。10そして二人のならず者を彼に向き合せて座らせ、『お前は神と王を呪った』と証言させなさい。それからナボトを連れ出し、石で打ち殺しなさい。」11町の人々、町に住む長老や貴族たちは、イゼベルが命じたとおり、すなわち彼女が手紙で書き送ったとおりに行った。12彼らは断食を布告し、ナボトを民のいちばん前に座らせた。13二人のならず者も来て、ナボトに向き合せて座った。ならず者の連中は民の前でナボトについて証言し、「ナボトは神と王を呪った」と言った。人々はナボトを町の外に連れ出し、石で打ち殺した。14人々はイゼベルに使いを送って、「ナボトは石で打ち殺されました」と伝えた。

15イゼベルは、ナボトが石で打ち殺されたことを聞くや、アハブに言った。「直ちにイズレエル人ナボトのぶどう畑を自分のものにしてください。ナボトはあなたにぶどう畑をお金で譲るのを拒みましたが、彼はもう生きていません。死んだのです。」16アハブはナボトが死んだと聞か、直ちにイズレエル人ナボトのぶどう畑を自分のものにしようと下って行った。

## ガラテヤの信徒への手紙1章1~10節

1人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、この方を死者の中から復活させた父なる神

とによって使徒とされたパウロ、2ならびに、私と共にいるきょうだいで一同から、ガラテヤの諸教会へ。3私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和があなたがたにありますように。4キリストは私たちの父なる神の御心に従って、今の悪の世から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身を献げてくださったのです。5この神に世々限りなく栄光がありますように、アーメン。

6キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に移って行くとしていることに、私は驚いています。7ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人たちがあなたがたをかき乱し、キリストの福音をゆがめようとしているだけなのです。8しかし、私たちであれ、天使であれ、私たちがあなたがたに告げ知らせた福音に反することを告げ知らせるなら、その者は呪われるべきです。9私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。誰であれ、あなたがたが受け取った福音に反することをあなたがたに告げ知らせるなら、その者は呪われるべきです。

10今私は人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし、今なお人の歓心を買おうとしているなら、私はキリストの僕ではありません。

## マルコによる福音書 12章35~44節

35イエスは神殿の境内で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。36ダビデ自身が聖霊を受けて、こう言っている。

『主は、私の主に言われた。』

「私の右に座れ

私があなたの敵を

あなたの足台とするときまで。」』

37このように、ダビデ自身がメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」大勢の群衆は、イエスの教えに喜んで耳を傾けた。

38イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、正装して歩くことや、広場で挨拶されること、39会堂では上席、宴会では上座に座ることを望んでいる。40また、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

41イエスは献金箱の向かいに座り、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入っていた。42そこへ一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわち一クアドランスを入れた。43イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきりしておく。この貧しいやもめは、献金箱に入れている人の中で、誰よりもたくさん入れた。44皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

**黙想のためのノート****次主日教会暦と聖書日課について**

・9月18日「聖霊降臨節第16主日」の日課主題は「生涯のささげもの」。

・旧約聖書日課は、「列王記上」から、北王国アハブ王とナボトのぶどう畑を巡る逸話の一部。使徒書日課は、「ガラテヤの信徒への手紙」から、冒頭の序言および本論最初の箇所。福音書日課は、「マルコによる福音書」から、主イエスが神殿の境内で人々に教える中で、貧しいやもめの献金する姿を見て語られたことを伝える伝承箇所。

**旧約日課(列王記上 21章より)**

・「列王記」は、ユダヤ正典「前の預言者」の第四の書で、ダビデ王の最期から南北両王国の滅亡までを記す「イスラエル王国正史」として著されている。南北両王国滅亡までを扱っているとおり、本書は、南王国滅亡後のバビロン捕囚期以後に編集・編纂され、解放・ユダヤ帰還後の神殿再建・ユダヤ共同体再結集に伴って編纂された正典「律法と預言者」の一部とされた。これらの正典編纂は、バビロン捕囚期にもダビデ王家と共に残存した祭司・預言者集団を中心とした者たちの手によってなされたと推認されるが、この祭司・預言者集団の中心を占めたのが、南王国滅亡期に活躍した宮廷預言者のエレミヤやエゼキエルの系譜に連なる者たちであったと考えられる。彼らは、南王国ヨシヤ王(在位=前640~609年)の下で進められた改革で中心的な担い手となった親バビロニア派の祭司・預言者集団の流れを汲み、前8世紀末の宮廷預言者イザヤを模範としていたと考えられる。南王国ユダは、ソロモン王の時代に王立エルサレム神殿が建立されているとおり、世俗権力としての王権と宗教的権威としての祭司集団が一体化した政体を取っていた。その南王国の歴史を紐解く時、宮廷預言者イザヤの預言(助言)に耳を傾けなかったアハズ王の姿(イザヤ書7章)と、耳を傾けたヒゼキヤ王の姿(イザヤ書36~39章=王下18~20章)が対比的に伝えられ、「神の言葉に聞き従う」という神学的原則に基づいて、祭司・預言者が王に対しても対等または優位な立場を取るべきであるという政体観が提示されていることが分かる。この政体観は、「サムエル記」に伝えられるダビデ王物語の中にも明確に組み込まれ、ダビデ王に対する預言者ナタンへの立ち位置などが印象的に描かれている(サム下7章、同12章など)。一方、北王国イスラエルにおいては、世俗の王権と宗教的権威を有する祭司集団は、必ずしも一体化しておらず、地方聖所を拠点とする祭司集団(およびこれを庇護する地方豪族)が王権と独立した立場で存在していたと考えられる。この両者が極度に対立していたと考えられるのが北王国オムリ王朝時代(前876~842年)で、「列王記」は、預言者エリヤの伝承物語を組み込んだ形で、オムリ王朝アハブ王・イゼベル王妃時代の状況を物語っている。

・日課箇所は、エリヤ伝承物語の一部として伝えられる「ナボトのぶどう畑」の逸話の一部。アハブ王が欲したナボトのぶどう畑を、王妃イゼベルがナボトを強殺させ力づくで奪ったという出来事に対して、日課箇所に続く箇所では預言者エリヤが登場し、その過ちを告げるという場面が描かれる。

・エリヤは、「ギレアドの住民、ティシュベ人」(王上17:1)と紹介されているとおり、おそらくギレアド地方の聖所に属する祭司集団の指導者であったのだろう。一方、サマリアの山を買い取って新都を建設したオムリ王朝(王上16:24)は、おそらく支配領域の地方聖所=地方豪族の影響力を嫌って、アハブ王の王妃としてフェニキアの都市国家シドンの王家からイゼベルを迎えるなどフェニキア人との結びつきを強め、彼らと結びつきの強い祭司集団(バアルの預言者・祭司!)を宮廷に迎えていたと考えられる。これに対して、王国領域内の地方聖所祭司集団が反発し、エリヤや続くエリシヤがオムリ王家と対立。最終的に、エリシヤが各地の地方聖所祭司集団(=地方豪族)を束ねて一大勢力を形成し、王家に仕えていた司令官イエフが王朝転覆、新王朝樹立する後ろ盾となったのである。これによって、イエフ王朝は、祭司・預言者の影響下に王権が置かれる政体をとることになったとするのが、「列王記」の視点となっている。日課箇所を含むエリヤ物語として描かれるアハブ王時代の逸話は、いわば反面教師として置かれているのである。ただし、「ナボトのぶどう畑」の逸話の結末は、アハブ王が預言者エリヤの預言(助言)を聞き入れ、悔い改めたという描写になっている(王上21:27以下)。そこでは、アハブ王の過ちの原因をシドンから迎えた王妃イゼベルに帰しており、イスラエルの悪行の根を外在化することで悔い改め・立ち帰りの可能性を残した描写にしようという意図があったと思われる。

**使徒書日課(ガラテヤ1章より)**

・「ガラテヤの信徒への手紙」は、「パウロ書簡」の一つ。パウロがシリア州アンティオキア教会から派遣されたバルナバ宣教団の一員として訪れ、教会共同体を創設させたと推認されるガラテヤ地方の信徒に向けた書簡として著されている。この地方の教会共同体は、パウロらの指導によって、初期から洗礼によって異邦人を共同体に迎え入れる方針を取っていたが、後からやってきた「ユダヤ伝統主義」の宣教者によって「割礼と律法遵守の制約」を勧められ、共同体内に混乱が生じていたと考えられる。これに対して、徹底した「ユダヤ改革開放主義」を推し進めようとしていたパウロが、断固として反対の立場を主張し、「ユダヤ伝統主義」の考えを放棄すべきことを求めて記したのが、本書簡である。本書簡は、パウロが非常に感情的な言葉のまま記しており、表現の乱れや文章の不整が少なからずあり、論理展開の破綻も見られるため、解釈には注意を要する。

・日課箇所は、本書簡の冒頭部であるが、他の「パウロ書簡」に見られる定型化された様式が崩されている。また、序言に続く本論も、最初から論争的な言述で始められている。このような書き出しの書簡にもかかわらず、宛先教会で真摯に受けとめられたからこそ、保存されて「パウロ書簡集」の中に加えられ、「新約聖書」正典に収められたということ自体が、驚きである。そこには、パウロとガラテヤ諸教会信者との間の信頼関係のみならず、「パウロ書簡集」を編纂した関係諸教会信者のパウロに対する信頼が、不可欠であったはずである。宣教師であっても、ときに感情的になり、信者相手に暴言を口にしたり、過誤を犯すときがある。それをも受けとめ得た教会共同体の信仰の姿勢を知ることにも、この書簡は読者信者を導いているのである。

### 福音書日課(マルコ 12 章より)

・日課箇所は、受難物語に組み込まれて伝えられる主イエスの神殿説教の一部。  
 ・35~37 節は、主イエスと律法学者の間でなされた「ダビデの子＝メシア」論争に関する見解であるが、この論争の詳細は分からない。主イエスは、律法(聖書)解釈を巡って論争されていたことを伝えているという意味で重要。主イエスの問題意識は常に聖書解釈とそれに結びついた実践にあった。引用は詩編 110:1。  
 ・38~40 節は、前段を踏まえて、律法学者らの生活態度や言動を批判している。ここに描かれる律法学者像は、誇張した風刺画であり、律法学者が皆、このような振る舞いをしていたと考えるべきではないだろう。「やもめの家を食べ物にしている」という言説がどのような実態を指して言われているのかは分からないが、後段の「やもめの献金」の逸話を導き出している。  
 ・41~44 節は、「やもめの献金」として知られる逸話。よく知られた逸話であるが、注意すべきは、やもめに対して献金の姿勢を褒めているわけではない、ということ。主イエスは、この場面で、やもめに語りかけているのではなく、弟子たちに教えている。

### 来週の誕生日 (9月18日~24日)

#### 主日礼拝の讃美歌から

・21-7 番「ほめたたえよ、力強き主を」(= I-9 番「ちからの主をほめたたえまつれ」)は、17 世紀ドイツ改革派牧師で敬虔主義者シュペーナーと交流のあったネアンダーが死の年に発表した詩編 103 編に基づく歌詞。曲は古くからドイツで用いられてきた旋律で、ネアンダーが自作の歌詞のために選んだ。J.S. バッハがカンタータで何度か採用している。  
 ・21-507 番「主に従うことは」は、19-20 世紀米国メソジスト派牧師グラント・タラーの作詞作曲。孤児として育ち学校教育をほとんど受けないまま 19 歳で牧師になり、ソングリーダーとしても活動。日本語版は、1923 年版『日曜学校讃美歌』から継承。  
 ・21-364 番「いのちと愛に満つ」は、20 世紀後半の代表的な讃美歌作家レンの作詞。当初、従来 of the 神観

にとらわれない斬新な表現が物議を醸し、1987 年の合同メソジスト讃美歌集改訂版では不採用とされた経緯があるが、その後、多くの教派讃美歌集で採用されてきた。作曲のヤングは、米国を代表する教会音楽家・作曲家で、合同メソジスト教会の讃美歌編集に二度携わっている。

#### 21-7「ほめたたえよ、力強き主を」

### Lobe den Herren, den mächtigen König der

1. Lobe den Herren, den mächtigen König der Ehren! / Meine geliebete Seele, das ist mein Begehren. / Kommet zu Hauf, / Psalter und Harfe wacht auf, / lasset die Musikam hören!
2. Lobe den Herren, der Alles so herrlich regieret, / der dich auf Adlers Fittigen sicher geführet, / der dich erhält, / wie es dir selber gefällt; / hast du nicht diese verspüret?
3. Lobe den Herren, der künstlich und fein dich bereitet, / der dir Gesundheit verliehen, dich freundlich geleitet; / in wie viel Noth / hat nicht der gnädige Gott / über dir Flügel gebreitet!
4. Lobe den Herren, der deinen Stand sichtbar gesegnet, / der aus dem Himmel mit Strömen der Liebe geregnet, / denke daran, / was der Allmächtige kann, / der dir mit Liebe begegnet!
5. Lobe den Herren, was in mir ist, lobe den Namen! / Alles, was Odem hat, lobe mit Abrahams Saamen; / Er ist dein Licht, / Seele, vergiß es ja nicht, / Lobende schliesse mit Amen!

#### 21-507「主に従うことは」

### In his steps I follow

1. "In His steps" I follow as I go / On my pilgrim journey here below, / "In His steps" I follow day by day, / Trusting Him to lead the way.
- [Chorus] Gladly in His steps I follow I follow I follow, / Gladly in His steps I follow, / Gladly in His steps I go.
2. "In His steps," what peace and joy I know, / Every day my path doth brighter grow, / "In His steps" His spirit dwells within, / Cleansing me from every sin. [Chorus]
  3. "In His steps," I prove His matchless love, / While He leads me to my home above, / "In His steps" tho, pressed by every foe, / I shall conquer all, I know. [Chorus]
  4. "In His steps!" how sweet to walk with Him, / Even tho, clouds my pathway often dim, / "In His steps" His smile illumines the way, / And my night is turned to day. [Chorus]

#### 21-364「いのちと愛に満つ」

### Bring Many Names

1. Bring many names, beautiful and good, / celebrate, in parable and story, / holiness in glory, living, loving God. / Hail and hosanna! Bring many names!
2. Strong mother God, working night and day, / planning all the wonders of creation, / setting each equation, genius at play: / Hail and hosanna, strong mother God!
3. Warm father God, hugging every child, / feeling all the strains of human living, / caring and forgiving till we're reconciled: / Hail and hosanna, warm father God!
4. Old, aching God, grey with endless care, / calmly piercing evil's new disguises, / glad of good surprises, wiser than despair: / Hail and hosanna, old aching God!
5. Young, growing God, eager, on the move, / saying no to falsehood and unkindness, / crying out for justice, giving all you have: / Hail and hosanna, young, growing God!
6. Great, living God, never fully known, / joyful darkness far beyond our seeing, / closer yet than breathing, everlasting home: / Hail and hosanna, great, living God!